

令和5年度 第1回 八千代市立郷土博物館協議会会議録

会議名 令和5年度第1回八千代市立郷土博物館協議会

日時 令和6年1月23日(火)

開会 午前10時00分

閉会 午前11時30分

会場 八千代市立郷土博物館学習室

報告事項

- | | | |
|-----------|-----------------------|-----|
| (1) 令和4年度 | 八千代市立郷土博物館事業報告 | 資料1 |
| (2) 令和5年度 | 八千代市立郷土博物館事業報告(中間) | 資料2 |
| (3) 令和6年度 | 八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子) | 資料3 |

視察

- (1) 令和5年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～資料から知る阿蘇・米本地域～」

出席者

委員	久留島 浩	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 特任教授 前国立歴史民俗博物館長
	<small>やまき</small> 八巻 憲一	八千代市子ども会育成連絡協議会会長
	小林 弘治	学校法人 聖書学園 千葉英和高等学校 非常勤講師
	目黒 英樹	八千代市立勝田台南小学校長

注) 斎木健一委員は都合により欠席

事務局	教育長	小林 伸夫
	教育次長	春田 泰宏
	文化・スポーツ課長	米ノ井 正樹
	館長	中村 元重
	副主幹	小林 伸一
	主査補	安藤 茂和
	主任主事	常松 成人
	資料調査研究員	野中 政博
	資料調査研究員	石山 由里子

公開・非公開 公開

傍聴人定数 5名

傍聴人 1名

会議録

開会

○**小林副主幹** 郷土博物館の小林です。時間となりましたので、ただ今から令和5年度第1回八千代市立郷土博物館協議会を開催させていただきます。

「八千代市立郷土博物館協議会運営規則」（平成12年5月31日教委規則第8号）第3条第2項により、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」とあり、本日は5名中4名の委員の御出席を頂いておりますので、会議として成立しております。

なお、当協議会は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第3条に基づき公開対象となっておりますが、本日1名の市民の方が傍聴されております。

初めに八千代市教育委員会の小林伸夫教育長から、ご挨拶を申し上げます。なお、教育長は、公務のため10時55分前後に退席させていただきますことをご了承ください。

では、小林教育長、よろしく申し上げます。

1 教育長あいさつ

○**小林教育長** 令和5年度第1回八千代市立郷土博物館協議会の開催にあたりまして、一言、あいさつ申し上げます。

委員の皆さまにおかれましては、公私ご多忙のなかご出席いただき感謝申し上げます。

また、昨年4月に学校教育関係の委員の変更があり、委員への就任をご承諾いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

昨年5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行しており、郷土博物館においても小学生の来館見学や中学生の職場体験の受入れ等の新型コロナウイルス以前に実施していた業務も増加してきており、少しずつコロナ禍以前の日常が戻りつつある事を感じています。

さて、千葉県では150周年の記念すべき年に第71回全国博物館大会が開催されました。昨年の4月1日から「博物館法の一部を改正する法律」が施行され、博物館の活動の有り方も大きな転換を迎えている中での開催となり、デジタルアーカイブやDX（デジタルトランスフォーメーション）、多様な主体との関わり、地域の特性の活用等の様々なテーマを取り扱ったと聞いています。

八千代市立郷土博物館においても、本市の自然・歴史・文化・産業などに関わる資料の、収集・保管・管理・調査を行い、展示・公開等の様々な業務に当たりながら、博物館法の改正にともなう対応や様々な博物館を取り巻く課題についても対応を進めていきたいと考えております。

最後に本日は「くらしのうつりかわり展 ～資料から知る阿蘇・米本地域～」を視察していただきますが、旧米本小・米本南小・阿蘇小・阿蘇中学校が合併して義務教育学校「阿蘇米本学園」として生まれ変わった事も展示しております。小学校から中学校への多感な時期を様々な世代と一緒に過ごす、小中一貫校という未来に向けた取り組みについても紹介しておりますので、是非ご覧になっていただきたいと思っております。

本日は、委員の皆様から、忌憚のないご意見を頂く機会を設けさせていただきましたので、委員の皆様には、重ねて活発なご意見を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

○**小林副主幹** ありがとうございます。それでは、本日、今年度より新任の協議会委員がいらっしゃいますので、一言ご挨拶を頂きたいと思っております。学校教育関係者の協議会委員ということで、八千代市立勝田台南小学校長でいらっしゃいます、目黒英樹委員です。それでは、目黒委員、よろし

くお願いいたします。

○**目黒委員** この度新委員になりました、勝田台南小学校の目黒英樹と申します。郷土博物館の先生方には、出前授業など、本当に子どもたちが楽しくやっていただいて、本当に助かっております。よろしくお願いいたします。

○**小林副主幹** ありがとうございます。続きまして、久留島委員長にご挨拶頂きたいと思います。

○**久留島委員長** 久留島でございます。おはようございます。先に私の感想から申し上げますが、昨年の12月25日に千葉英和高校の3年生の研究発表会というのがございまして、そこに参加させていただきました。卒業生の史学科に進まれた方が司会されたんですけど、3人の高校生が成田街道に関する研究ですとか、博物館のデジタル化の問題に関する研究をしておりました。これらは大変充実した研究でございまして、当日5人くらい八千代市議の方がいらっしゃいましたけれども、「自分たち市議よりもよっぽど地域のことをよく知っている」と、大変感激しておられました。私もまったく同感でありまして、博物館法の改正で小中の学校の授業の中に入れてたりとか、それからデジタル化を進めたりとかが当然言われているわけですけども、高校も非常に重要なのだなと改めて思いました。高校の時に八千代の郷土の歴史を学ぶ子たちは、大学に入っても史学科に行き、後で聞いてみると、八千代に就職したいとか八千代の教員で働きたいとか言っているんですね。そういう若い力が増えていくと、八千代も変わっていくのではないかなと思っています。その意味ではこの郷土博物館が中核として果たす役割がますます大きくなっていくのではないかなと思いました。

○**小林副主幹** ありがとうございます。ここで改めて委員の紹介をさせていただきます。(久留島委員長→目黒委員→小林委員→八巻委員の順に紹介) ありがとうございます。なお、齋木委員は本日、都合により欠席の連絡を頂いております。

それでは議題に移りたいと思いますので会議の進行を、議長にお願いします。

3 議題

○**久留島委員長** それでは、令和5年度八千代市立郷土博物館協議会を開催いたします。

本日の審議事項等に関する資料も事前に送られご覧になっていらっしゃると思いますので、できるだけスムーズに会議を進めさせていただきたいと思っております。

はじめに、議題(1)として、「令和4年度事業報告」が提出されております。議題(2)「令和5年度事業報告(中間報告)」が提出されておりますけれども、関連することでございますので、事務局の方から併せて(1)、(2)の議題について説明をお願いいたします。

(1) 令和4年度八千代市立郷土博物館事業報告

○**中村館長** それでは、事務局の方より(1)令和4年度八千代市立郷土博物館事業報告及び(2)令和5年度八千代市立郷土博物館事業報告(中間報告)について資料1・2を使って説明させていただきます。その前に、会場でお配りした資料は直っておりますが、委員の皆様事前に配りました資料について訂正がございます。(訂正内容を説明)。

令和4年度の八千代市立郷土博物館事業について報告いたします。

それでは配布資料1の項目、2資料からご報告します。①収蔵資料は民俗資料や写真資料等が全部で46,932点の収蔵数でした、②資料の修補は定期的に修補を22回行いました。③図書資料は他市等から寄贈された図書類を、新たに397冊追加しました。

3 調査・研究については、企画展に関連した調査を中心に12回実施しました。

4 展示については、①常設展示は新川流域を中心とした八千代の自然・歴史・文化・産業を常設展示室にて行っていますが、その展示の民俗展示部分の一部をレイアウト変更しました。②企画展示は「富士をのぞむ～八千代に残る富士山信仰～」を実施しました。③特別展示は「八千代市の動物一人との関わり」と「くらしのうつりかわり展 ～昔の道具とくらし～」の2つを実施しました。それ以外にも④ロビー展示として3つ実施すると共に、⑤郷土博物館で活動している同好会連携展示として、令和4年度から再展示となった土器づくり作品展を加えた3つの作品展示を実施しました。

5 学校連携については、小中学校の出前授業や来館見学等で57件の依頼がありました。

6 市民学習の支援については、市民学習の支援として様々な講座や体験、解説会、観察会等を行いました。代表的なものとして企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子ども向けになりますが、昔遊び体験や、モノ作り体験等を実施しました。

7 地域協働については、令和4年度は、新型コロナウイルスの影響により中止となっていた東京成徳大学との連携した「伝統装束体験」や市民団体と連携した「多文化交流 in 八千代 2022」等を開催し、地域の各種団体との連携を図る事が出来ました

8 広報については、引き続きホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。

9 決算額については、歳入では新型コロナウイルス感染対策対応地方創生臨時交付金のみ令和3年度より増えております。内容については郷土博物館内の全手洗いの自動水栓化と洋式便器の無かった1か所の工事代の分として歳入が増えています。それ以外については概ね前年度と変わっておりません。

歳出では郷土博物館運営事業としては令和3年度に比べると新型コロナウイルスの影響で出来なかった対面での会議が出来るようになった報酬の支出が増えましたが、それ以外については概ね前年度と変わっておりません。郷土博物館維持管理事業については、委託料のハロゲン化物消火設備容器交換業務委託が、消火設備設置から29年経過しており、消防法の点検期限の30年に迫っていたことから実施しました。また工事請負費として、歳入で説明した新型コロナウイルスに伴う手洗い自動水栓化等工事を実施するとともに、設置から交換していない学習室や故障してしまった荷解室、工作室、図書室の空調機器の更新工事を実施しました。

令和4年度 郷土博物館事業報告は以上です。

(2) 令和5年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間報告）

○中村館長 引続き令和5年度の八千代市立郷土博物館事業（中間）について報告いたします。

それでは配布資料2の項目、2資料からご報告します。①収蔵資料は民俗資料や写真資料等が12月末時点で、全部で47,009点の収蔵数でした、②資料の修補は定期的に修補を、24回行いました。③図書資料は、新たに255冊追加しました。

3 調査・研究については、12月末に実施した調査1回分を加えた、地元の民俗行事の調査を9回実施しました。なお詳細については、本日お配りした市内民俗行事調査資料を確認ください。

4 展示については、①常設展示は説明板の一部を最新の情報に変更しました。②企画展示は「発掘やちよ新情報～古代集落と中世城館～」を実施しました。③特別展示は県巡回展「令和5年度出土遺物公開事業 流山新市街地地区の遺跡展 大地より出でし先人の足跡」と「くらしのうつりかわり展 ～資料から知る阿蘇・米本地域～」の2つを実施しました。それ以外にも④ロビー展示として、新たに設置した博物館で日常的に行っている調査・研究、資料の収集・補修活動を紹介する「やち博コレクション」を含めた3つを実施すると共に、⑤郷土博物館で活動している同好会連携

展示として3つの作品展示も計画しています。

5 学校連携については、小中学校の出前授業や来館見学等で24件の依頼がありました。また博物館教育への協力として、千葉英和高校より古文書に関する整理のお手伝いの申し出があり、古文書の整理、具体的に言うとデジタル化の実証確認と実際の作業を行ってもらう実習を行いました。

6 市民学習の支援については、市民学習の支援として様々な講座や体験、解説会、観察会等を行いました。今年度も昨年に引続き企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子ども向けとなる昔遊び体験や、モノ作り体験等も実施しました。

7 地域協働については、令和4年度に引続き「伝統装束体験」の開催を予定しています。

また公民館や図書館との連携として、講座や現地解説会等を実施し公民館等関係機関との連携を強化しました。

8 広報については、引き続きホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。

なお予算については、令和5年度の歳入は新型コロナウイルス感染対策対応地方創生臨時交付金が無くなった以外は特に変更はありません。歳出に関しては郷土博物館運営事業の委託業務として八千代市指定文化財の墨書土器1点の複製品作成業務委託を予算化できたことから新たに複製品を作成しました。博物館維持管理事業については、修繕料として学習室の暗幕が経年劣化で裂けていたことから学習室暗幕修繕等を行い、工事請負費としては敷地内に電気を引き込む際に必要な高圧気中不可解開閉器の交換工事等を実施しております。

令和5年度 八千代市立郷土博物館事業（中間）の報告は以上です。

私の方からの概要説明は以上となります。代表的な企画展の説明として、令和5年度に実施した企画展を、常松より説明。その後、学校連携事業を小林より説明。

最後に資料整理の状況として、古文書の整理状況を野中より説明いたします。

○常松主任主事 令和5年度の企画展について、私から、7月15日から9月18日に実施しました企画展についてご説明いたします。

テーマは、「発掘やちよ新情報～古代集落と中世城館～」としました。近年、当館周辺では開発工事が相次ぎまして、新たな店舗ができるなど景観が変わっております。当館敷地を含めまして、この周辺一帯は「殿内遺跡」の範囲内になっております。当館の建設に先立ち、発掘調査を行った経緯がございます。近年の開発に伴いまして発掘調査が行われまして、奈良平安時代の集落遺跡などが発見されております。それらの成果を紹介いたしました。

あわせて、近隣に所在する村上込の内遺跡、これは現在の村上団地造成に伴って調査され、「村上遺跡」として国立歴史民俗博物館においてジオラマが展示されるなど、大きく取り上げられている遺跡で、前回協議会において、小林委員からご指摘のあったものです。これについても紹介いたしました。

また、やはり近年、中世の米本城跡にて開発に伴う発掘調査があったほか、新発見の城館跡がありましたので、これらについてもご紹介いたしました。さらに中世の歴史資料である板碑についても、新発見や再調査などを行いましたので、取り上げました。

この企画展の展示品の一部、村上遺跡等につきましては、企画展終了後、常設展に加えるなどして、常設展の充実を図りました。以上です。

○小林副主幹 今年度の学校連携について私から説明いたします。資料2の2ページ 学校連携の項目をご覧ください。令和5年度の12月末日時点までの館内見学は10件、4年度は7件でした。今年は特に市内の県立八千代特別支援学校と市内学校の特別支援学級からの来館見学がありました。

出前授業につきましては、八千代市内の様子の変り変わりをパワーポイントで説明あるいは実物で展示資料を紹介しております。他にも戦時中の人々の暮らし、米本の方でも空襲があったとのことで小学生もびっくりしておりますけれども、昔遊び体験、最近では八千代市内の年中行事のワラヘビや獅子舞等をパワーポイントや動画等で紹介しております。よく学校の先生からも資料を貸して下さいといった声が出るのですが、やはり資料特別利用申請等の手続もありますし、資料の取扱いの難しさもありますので、こちらから出向いて出前授業としてやっております。昨年度は見学・出前を合わせて57件ですので、それに比べると半分ですが。3月までの出前授業の依頼は、小学校3年生の昔の道具体験が非常に多くて12件です。昨年は1月から3月までで30件です。2名ですと同時進行も可能だったのですが、学校担当職員が今年度から1名になりましたので、そういう事情がありまして件数にも影響が出ていると考えられます。

他にも学校連携でコロナもだいぶ緩和されまして、6月6日・7日の2日間で村上東中学校から4名職場体験がありました。他にも1日限りですが東高津中学校から1名職場体験がありました。そのほかにも小学校2年生でキャリア教育の一環だと思いますが、総合学習で博物館の職員がどう働いているかという職業インタビューを受けるといった幅広い活動がだんだん増えて参りました。件数には出ませんが、対応することは増えておりますので、今後もうまく対応していきたいと思っております。

2番目に「博物館教育への協力」とありますが、千葉英和高校のサマースクールということで野中の方が中心に担当しております。この後細かいご質問等があれば野中の方が対応いたしますので、よろしく願いいたします。

学校連携については以上です。

○野中資料調査研究員 続きまして、私野中から今年度の古文書の整理状況についてご説明をさせていただきます。昨年度から引き続きまして、勝田から出てきました松戸茂夫家文書を中心に整理しております。木箱にしまして5つ。そして木箱に収まらない分として地券というのがありました。これは風呂敷包みになっておりました。木箱1は22点ございまして、目録を作成し既に松戸家に引き渡しております。木箱2は1,160点になりまして、こちらは現在目録を作成中でございます。さらに木箱3・4・5につきましては、3が10点、4が37点、5が34点ございまして、こちらは現在パソコン入力に進んでおります。物は軸物というものが軸から外れた資料が殆どでございました。ちなみに木箱1は土地の売買証文が中心でした。勝田の土地の売買証文ですね。木箱2は近現代の税金関係の資料が中心でございます。その他地券が121点ございまして、こちらは千葉英和高校の生徒さんの力をお借りすることができまして、袋書きの方は終了してパソコン入力という段階に入っております。これとは別に台帳という以前に作ったものがあるんですけど、こちらは古文書台帳を改訂するために収蔵庫の中の整理作業を行っております。今のところ25件を選抜しまして、そちらのも順次進めております。

さらに修補作業は資料の保存活用を目的として、白井の横山謙次先生を今年度は3回お招きして指導を受けております。私の方からは以上になります。

○中村館長 長くなりましたが、以上で(1)令和4年度事業報告、(2)令和5年度事業報告(中間報告)の説明となります。

○久留島委員長 ありがとうございます。事務局から報告のありました件に関しまして、何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

○小林委員 博物館の収蔵資料のデジタル化は現状どの程度進んでいるのでしょうか。例えば、今年初めに能登半島の方で大地震が起きたように我が国は非常に災害の多い国でございます。前回の東

日本大震災でも非常に多くの資料が失われて、何がなくなったかわからなくなっちゃったというようなお話もありましたから、そういうことへの対応として資料のデジタル化を進めてどこに保存しているのでしょうか。図書資料についても、年々冊数が増えて開架している資料以外に閉架している資料の利用の仕方はどうなっているのでしょうか。

それと、企画展示の図録・解説書について、以前は良い写真を使って詳細な解説書を印刷して販売しておりましたが、最近の企画展は諸般の事情でそういったものが難しいというのであれば、それこそデジタル化してホームページで掲載するなどして市民の皆さんに還元できればいいのではないかと思いますので、現状はどうなっておりますでしょうか。

○久留島委員長 ありがとうございます。資料のデジタル化については私も同感でして。実はデジタル化すればいいということではなくて、東北大学が一生懸命デジタル化した資料が東日本大震災の時にコンピューターごと倒れてまっさらになってしまったということがありましたから、そういうことを含めて考えなければならないと思うんですけど。まずはデジタル化がどの程度まで進んでいるか・どういう計画があるのか。2つ目は図書資料の閲覧はどのように広げていけるのか。3つ目の図録は確かに以前私も良い図録を見せていただいた記憶があるのですが、図録は企画展の記録でもありますよね。図録のデジタル化はすごく良い提案だと思うのですが、一つのやり方としてお考えを伺いたいと思います。

○中村館長 博物館資料のデジタル化ですが、基本的には「I. B. Museum」という資料管理のシステムでExcelのような形で入力して進めておりますが、現状はそこまで止まっている状態です。写真は特別入れていないという状況なので、正直言ってデジタル化は進んでいないという状況ですが、目録としてはサーバーのハードディスク本体の中に保存してあります。それと別体のハードディスクの中にもデータを保存しており、火災等災害が起こった時にハードディスクを持ち出すような形で、基本的には紙とデータで保存する形で取り組んでおります。デジタル化という形で進めなければいけないというふうには考えているんですが、資料の整理は進んでいない状況ですので、もう一度資料の見直しも必要だなと根本的な部分も考えているところでございます。

それから2つ目の閉架書籍となっている図書資料の利用方法なんですけど、図書資料室等に置いていない書籍については、箱に収めて何番にどういう書籍が入っているかが分かるようにして管理しておりますので、図書資料室に置いていない書籍はお時間を頂いて箱から出してきてお見せするという形で対応しているというのが現在の状況です。ただ、確かに書籍の傷みとか激しいものもありますので、書籍の方の整理というものも必要だなと感じています。

3番目の図録の作成状況についてなんですけれども、確かに最近の我々の企画展では図録の作成というものを全くしておりません。金額的な面もそうなんですけど、図録の作成に際しては調査の時間がかかなり必要になってしまいますので、現状なかなか難しい部分があったので、図録というよりは解説書という形で対応しておりました。ただ、確かに紙で出すという方法もあるんですけど、インターネットとかで企画展はこういう図録ですよという形で見てもらうことは可能だと思いますので、その点については今後検討してやれるところから進めていきたいと考えております。以上です。

○小林委員 (久留島委員長に) デジタル化を進めたとして、そのデータをパソコンのデータにしまっておくだけというのでは危険だという話を聞きましたが、例えば県の博物館ネットワークの中でサーバーに共通して入れておくとかそういうことって進んでいるのでしょうか？

○久留島委員長 今日は齋木委員がいらっしゃらないので分かりませんが、やってないんじゃないかと思います。小林委員がおっしゃったように全国レベルではやらなきゃいけないというふうに進めているのは確かです。博物館よりも県レベルで災害時における資料の保存をどうするかということと日常レベルではどうするかということは策定していました。そのなかに具体的にどう入れていく

かというのは、おそらく今後の作業でしょうね。市レベルでこれだけやっているのだから県でもちゃんと保管してくださいと言えば、恐らくそういうことはできそうな気がします。今度また県文書館が図書館と一緒に移転することになっていきますので、その中にその機能を一応は考えていたはずですが。そのあたりを含めて遅れていることは確かだと思いますね。是非取り組んでいただきたいと思っています。(他の委員に) このあたりのことはいかがですか？(なし)

博物館の展示図録は、あれだけ充実した展示があるので写真をデジタル化すればそんなに大変ではない。冊子にしようと思えば確かに予算がかかるんですけど、やはり市民の方に還元するという意味では私はやったほうが良いと思っていますので。それが無理だったらデジタル化で結構ですけど、せっかくあれだけ充実した展示があるので、少なくともいい写真と解説というのはお考えいただきたいと思っています。

○常松主任主事 デジタル化に関して補足させていただきたいんですが、委員の皆様が期待されるものとは全然レベルが違うと思うんですが、デジタルアーカイブ化ということでは八千代市立中央図書館を運営しておりますT R Cとの連携によりまして、八千代市の指定文化財である墨書土器12個体及び当館で所蔵しております江戸時代の絵図をデジタルアーカイブ化して公開しております。「A D E A C八千代市デジタルアーカイブ」で引いていただくと、八千代市の墨書土器については12点の内2点は立体でクルクル回して三次元で観られるようになっています。あとは非常に詳細で精細な写真ですね。絵図に関しましても非常に精細な写真でアップにすれば文字も読めるようになっております。このように、ごく一部ですが外部との連携事業でデジタルアーカイブ化して、公開しておりますので、ご紹介しておきます。

○久留島委員長 ありがとうございます。宣伝を含めてさせていただきたいと思っています。確かT R Cの方もお目にかかれてたかな。いらっしゃってたと思います。A D E A Cのシステムもいくつか作られていると思いますけど、地域の博物館と連携してやるような企業さんもいますので、そういうのも検討していくのも手かもしれませんね。これも是非宣伝して市民の方に見ていただくようにするのもいいと思います。

学校対応の方も一生懸命にやっておられて、ちょっと心配になるほどなんですが。学校対応職員の方が1名に減っている中で50件とは、これは大変な数字ですね。さっき教育長さんがおっしゃったように、博物館法の改正で学校教育の方でも博物館をもっと使えるということになりましたので。予算の方もあると思いますけど、ぜひ前向きに考えていただいて、人員の方もぜひご配慮いただきたいと思っています。

○小林委員 学校連携の関係で一つあるんですが、高校生を対象にするというのが着眼点として非常にいいなと思うんですね。小中学校への出前授業も大変苦勞されていると思いますが、この効果は非常に高いですね。大学との連携も東京成徳大学や秀明大学などとの対応もあるんですが。今まで確かに高校との対応は意外となされていなかったんじゃないかなと思って、そこに着眼を得たのがすごくいいなと思います。本市内に高校は公立3校と私立3校ありますが、中学までの生徒は基本八千代市内の子たちですね。高校生になるとその周辺地域の子たちとも交流が広がるので、その子たちを取り込むというのも八千代というのを理解させていくには非常に大切だと思います。大学生になると全国レベルまで広がるんですが、高校と連携するというのもいいなと思います。英和高校のサマースクールとの連携による古文書の整理をおこなったとの報告があるんですが、今後高校に対してはどのような対応をしていくお考えがあるのかお聞きしたいのですが。

○小林副主幹 千葉英和高校のサマースクールの古文書整理ということで今回初めて久留島委員長も含めて見学していただいたんですが、小中学校の見学も収蔵品は八千代市以外の物もありますし、もちろん市内の様子とかの資料もあるのでそれはできているんですが、高校生を受け入れるとやは

りお互い刺激になるというか、より幅広いいろんな方に博物館を知っていただくとか、そういった事業をすることは今後博物館利用者の増加にもつながり、いろんなPR活動にもつながると思います。ただ、博物館教育への協力ということで、ここ1～2年ほど大学の学芸員実習の受け入れは行われていないんですね。それは対応する職員の数が限られていて、担当する事業をこれ以上広めることが厳しい中でこの実習は行いました。収蔵庫資料の方も、例えばアウトプットの部分ですね。資料の整理だけでなく資料を活用した出前講座なども必要なので、野中の方が中心に担当しています。資料の管理の方は会計年度任用職員が担当しています。うちの職員だけでは厳しいので、外部の方に協力していただいて、それが実習であれば良いのではないかと試行錯誤をして、今回博物館教育への協力ということで実習を行いました。詳しくは野中の方から説明をさせていただきます。

○野中資料調査研究員 今回59点を撮影と袋書きという古文書の整理を行っています。袋書きに関しては完全に古文書を解読できなくなかなか難しいので、高校生のレベルでも厳しい面があったかなということで、順次直している段階であります。ただ撮影に関しましては、デジタル化と考えあわせますと、当館には機材がありませんから、英和高校さんの方からお借りして。特に私なんかは、昔はでかいカメラを持って撮影をしに行ったりしていたんですが、現在はこんなコンパクトな「書画カメラ」というものがあることを今回初めて知りました。それで撮影をしていったと。ただ、見たら白飛びというか光量が強くなっていたりして文字が判別できないようなところもありました。ですから撮影に必要な光量にもっと落とせばよかったなというところは感じています。ただ取りあえずは59点やっていただけたことは非常に助かりました。人数の限度なんですけど、今回指導教諭含めて6名だったんですが、やはり資材と言いますか道具が限られていることと、対応できる職員が私と片岡しかいないので、それを考えると今回のような5名が限度なのがデメリットではありますが、今回資料の整理には大いに貢献していただきましたので、感謝している次第でございます。今後の状況に関しましては、時期に関して今回は指導教諭の先生の方で決めていただいた関係がありまして、私と片岡の方が準備と確認作業が必要ですのでこちら側の対応ができない可能性があるんですけど、なるべくやっていければと考えております。

○久留島委員長 私もその実習に参加させていただきました。デジタル技術に関しては英和高校の先生方の技術がすごいですけど、確かに古文書を読むのはなかなか難しいと思います。「千葉資料ネット」というのがありまして、東日本大震災の時も千葉県は3番目に被害の大きかった県なんですね。その資料の片付けとか、震災じゃなくて旧家が潰れていたり昔郷土史家だった先生が亡くなったりすると資料が散逸するんですね。それらの資料をどうやって救うかといった活動をしているんですけど、そのレスキューの現場に高校生が何人か来られていました。英和高校の生徒さんも来られていましたし、他の高校の生徒さんも何人か来ていました。様子を見てみますと、やっぱり活動に参加するということはずごいモチベーションを高めるんですね。その生徒たちに訊くと「史学科に行きたい」とか「歴史をやってみたい」とかいうふうに言っているんで、実は歴史離れが若い子の間で進んでいる中でそういう経験ができるということがすごく大きいと思います。千葉英和の生徒さんを見てみると、読めないなりに自分たちが扱っている資料がどんなに貴重なものなのかを解っていて、やっぱりいいなと思いましたね。ですから、大変だと思いますけど郷土博物館でもやっていただきたい。それからちょっとボランティアの話になるかもしれないんですけども、古文書講座で来られている方が何人かいらっしゃいますよね。数十名いらっしゃるとは思いますが、最初に読んでもらって野中が校正するという形の活動ができるかと思うんですけども。

○中村館長 はい。お答えします。現状ではですね、一応古文書同好会というのがあるんですけど、ちょっと今連携が取れていない状況でして。例えば高校生の子たちがその中に入って活動するとか、そういう形で例えば連携取れたりボランティアとして活動してもらって、何かうちの資料を読んでもらって、最初に読んでもらって野中が校正するという形の活動ができるかと思うんですけども。

現状ではそこまでの取り組みまでは至っていない状況ですので、今後そういう活動ができるかどうかということも含めて、野中ともう一人古文書担当がいますので、その仕事の量も含めながら少しずつ進めていきたいと考えています。

○久留島委員長 千葉市でもそれから私は歴博でもやってないんですけど、ボランティアの方はご自分の興味とか自分のためにやっておられてそれはそれで重要な生涯学習の問題だと思うんですけど、博物館の側から見たらこれから読み手が減っていくわけですよ。その中でAIが読んでくれるっていう研究者もいますけど、それはあんまり意味がないというか。とりあえず使っているとは思いますが。本当に最後にやるのは力。人間の能力を鍛えないと。機械が読んだからいいでしょってなっちゃったら困るわけですよ。そういう意味では古文書講座も何回もやっているわけなので、そこに参加されている方の中からお手伝いいただける方を探すというのもありかなと思ったわけですから。古文書の整理も少しやれるのかなと感じたので。ボランティアを迎えるというのは職員の方の負担は大きいと思うんですよ。私はボランティアだからいいでしょってことになるとそれはそれで困るわけですから。ボランティアに参加していただくということがこれからの博物館にとってかなり重要だなと思うので、ちょっと述べさせていただきます。

○八巻委員 デジタル化というお話ですが、今スマホが主流なので博物館に来館して解説が聞きたいとなったらスマホでQRコードを読んだら出るよという形になったらいいなと。先ほど図録の話もありましたが、そういうものがどこかにアーカイブされてQRコードを読めば全部廻れるよというふうになればいいなと感じました。八千代市の施設はまだなかなかWi-Fiが飛んでいないなかで、市内の学校の方はデジタル化が進んで子どもたちにタブレットが配布されてWi-Fiも飛んでいるので、いずれ市の施設の方も整備が進んでいくといいなと思います。子どもたちが博物館に来てタブレットを持って自分たちで好きなところを解説がなくても廻ることができるんじゃないかなと感じました。

それと、広報ということで新たなSNSの開設もいいんですが、既存の八千代市のSNSにアップすることでフォロワーの方に見てもらった方が新たな利用者層を獲得するよりもある程度の利用者がいるところで発信をする方が手っ取り早いんじゃないかなと感じました。

○小林副主幹 広報やちよで講座を案内しても申し込みが少ない場合もあります。SNSは现阶段では情報をアップできるよう申請を進めているところです。広報やちよに限らずホームページに限らずいろんな方法で進めて行きます。QRコードにつきましては、私も茨城の博物館を視察しましたらQRコードで解説が読めるようになっていて紙の解説がなかったんですね。うちの博物館では小学生から聞いた話をより詳しく知りたいのでこの紙持って行っていいですかという要望がありますが、学校ごとに印刷していたら非常に紙媒体が大変なので。QRコードでどういう情報をどうやって取り入れたらいいかということは検討中です。ただ、スマホを持っていない高齢者の方もいらっしゃいますので、スマホと紙媒体と両方での対応を検討したいと思います。

○目黒委員 毎度学校に出前授業で来ていただきありがとうございます。小学校なんかだと、単元で地理歴史公民や政経と分かれています中で歴史となるとピンポイントになるんですね。そうなるとうろんな行事の中で校外学習だったりイベントがある中でここに来てほしいというのがあって、やはり人員の関係か調整できる幅が少ない。さらに小林先生が来ていただいたときに「大丈夫です。一人でやりますから」って持ってきた道具を一人で出していただくことになるんですね。それだけでもかなりの手間がかかっているなと思って、10分前後持ち運びや片付けもそうですけど学校職員の方も授業が始まっちゃうから手伝いたくても手伝えないという状況です。そういう意味では、先ほども出ました通り人手が足りないのが現状なのかなと思うと、出前授業ってこちらは簡単に思うんだけど、実は大変な中でやっていただいているのだなと正直感じました。でも子どもたちも火

の起こし方とか色んな道具を持ってきていただいたんですけど、本当に子どもたちが楽しそうで、生の体験ができて本当にありがたいです。

○**小林副主幹** 物を持って行って直接学校で話をするとそれだけで子どもの関心が違ってですね。スケジュール調整とかありますけど工夫次第で、例えば来館見学中全員同時に説明できないので、学習室で私がパワーポイントで説明している間に別の館職員2人が分かれて中の常設展示室の開設と外の石造物の解説をするというようにすれば、2クラスだったら30名それぞれローテーションで回せるのでそういうこともできますし。昔の道具体験も私一人では絶対無理なのでうちの職員一人一緒に行ってもらってサポートしてもらおう。当然現場の先生方も同時進行というのはなかなか難しいんですけど、1クラスずつ対応していただいて担任の先生に見ていただくというのであれば物のありがたみというのが私自身も勉強になりましたので今後も工夫しながらやらせていただきます。

○**久留島委員長** (委員に) 先生方、他にはございませんか? (なし)

(3) 令和6年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)

○**久留島委員長** それでは、事務局より議題(3)について説明をお願いします。

○**中村館長** 令和6年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)について説明いたします。

令和6年度については、引き続き戻りつつある郷土博物館利用者や市民の方々への郷土理解を図るために、企画展示等の各種事業を開催すると共に、令和4年度から課題となってきた資料の整理や整理方法について進めていきます。

2 資料については、前年度に引続き市域を中心とした様々な資料の収集・保管・管理を行い、古文書などの資料の修補や寄贈された図書資料等を活用していきます。

また収蔵している資料の整理方法については、今後のデジタル化等を考えていく中で資料整理が進んでいない、具体的に言うと目録に登録して終了となっている物などの再整理を進めていきます。

3 調査・研究については、行事の開催状況の情報収集を行いつつ、調査研究や現地確認を進めていきます。他にもロビー展示となる「やち博コレクション」を活用して調査・研究の進捗状況や成果も展示していきたいと考えています。

4 展示については、企画展が1回となっております。それ以外の特別展示やロビー展示等の展示については、現時点では令和5年度並みに計画しております。

5 学校連携については、出前講座や館内見学等に可能な限り郷土博物館全職員で協力しながら進めていきます。

令和5年度実施した博物館教育への連携については、現時点では計画は有りませんが、もし有れば検討していきたいと考えています。

6 市民学習の支援についても、様々な観察会や体験・講座を令和5年度並みに計画していますが、博物館の資料整理という課題が出ていることから、時間や職員を割く必要があることから、多少の講座減少も有ると考えています。

7 地域協働については、令和5年度に開催した、伝統衣装体験を今年度も引き続き実施する方向で計画しています。

8 広報についても、前年度に引続き、ホームページや広報やちよ、地域新聞等を活用した情報発信を行っていきます。

9 博物館協議会は来年度についても、令和7年の1月末から2月初め頃に1回を予定しております。

なお予算については、令和5年度に引き続き墨書土器の複製品作成業務委託や敷地内に引き込む高圧ケーブルの交換工事等を要望しております。

以上が議題（3）令和6年度 八千代市立郷土博物館事業計画（案）（骨子）の説明となります。

○久留島委員長 委員の皆様から何かご質問ございますか？（なし）ちょっと私の方から。来年度の企画展示をやらないと聞いたんですけど、そういうことではなくまだ決まっていないということなんですか？

○小林委員 来年度もいろいろと多彩な行事をやられていると思うんですが、例えば企画展示にしましても日頃の研究成果の発表の場ということになるわけですから新たな研究成果も積み上げられていると思うんですが、展示期間が終了したら解説書があるにしましても一旦は終わってしまうということですから、できれば研究成果を残していただけると。要するに一般の人たちが触れることができるように思うのが私の希望なんですが。新しいことが分かって、新しい発表があって、新しいことを活用したいという市民の方も多いかと思うんですね。そういった人たちの為にもやち博講座などで研究成果を公開して欲しいなと思います。その点一つよろしくをお願いします。

○久留島委員長 雑誌で発表するとかですかね？

○中村館長 雑誌で発表とかはちょっと難しいんですけど、やっぱり見てもらえるようにということで、今年度から設置した「やち博コレクション」というところで期間を区切らずに随時公開していますので、古文書の整理が進めば随時公開していきますし、新たな発掘等であれば速報的な感じで展示するというのもできるので、できるだけ市民に還元できるように展示している場所を設置していますので、そういうような形で市民の方にお見せすることができると考えております。

○八巻委員 学校連携や地域協働という所で、最近よく言われている「産学官」。地域の企業であったりとか協力いただけるところがあるのではないかと感じています。学校や地域でなくても歴史に興味のある企業さんもいらっしゃるでしょうから、そういうところに広く募ってもいいのかなと。予算がなかなか確保しづらい中で昨年話題になった科博（国立科学博物館）のクラウドファンディング等々も小規模ながら研究いただければ。公の予算だけでなく民間の資金も活用するというのも可能なんじゃないかなと。来年の予算というわけじゃなくて今後のこととして検討していただければと。

あと、私の出身の大和田小学校が長寿命化工事ということで、学校の大規模改修が入る中で学校にある歴史資料を大規模改修と同時に学校の先生たちに「すごい古いものだけどいらないよね」って捨てられる前にそういうものを見ていただいて、資料として保存しなければいけないものを保存していただかないと、来年度の夏ぐらいから大規模改修に入るということになっていますので、ちょっと手だけ打っていただければと思います。

○小林副主幹 今お話がありました、関係機関と公の予算だけではなくということで、私のことになりますけど、子ども体験教室を担当しまして、私一人で全4回担当したんですけど、流石にそれは厳しいなということで、当館で活動されております竹細工同好会さん、土器づくり同好会さんというグループがいらっしゃいまして、その人たちを講師として招いて、発表の場ということで子ども体験につながるような。そういったことは公の予算に頼らず外との繋がり活かすということに非常に重要性を感じましたので、こういったことも館長はじめ職員の方にアイデアを出していただき進めていきたいと思っています。

学校の歴史資料に関しましても、私が今回くらしのうつりかわり展の資料調査をしたときに旧阿蘇小・旧米本小・旧米本南小を訪問した時に、職員や先生がいないからこそこっちもじっくり見れたということもありまして、こんなものもあるのだ。今回企画展示室で入口の近くに八千代町時代の航空写真も展示してありますけれども、それは阿蘇小学校の放送室にありました。やはり現場で働いている先生方は当然忙しいというのもありますし、博物館の職員の立場からすると歴史の事柄が分かるものというのはすごく貴重な資料だなと。そういったことの経験を踏まえますと、前回も八巻委員の話にありまして、例えば文書で「こういうのはありませんか？」というのは私の経験上よくないなど。私の方で実際に出向いて例えば夏休みあるいは春休みに「こういうものを見させていただいてよろしいですか？」と校長先生の承諾を頂いて。今回の旧小学校で主にあった展示物は大体校長室・応接室あるいは図書室に埋まってるものもごさいます。ですから、学校資料の調査というのは実際の調査研究で行かないと、「こういうものがあるぞ」と現場の先生方に価値を知っていただく。そういったことが必要だなということで、今後相談しながら計画を進めていきたいなと思っています。

○久留島委員長 今のお話ですけど、学校資料の話は確かになくなりつつあって、実は危ないと思います。ある高校の資料を見たことがあるんですけど「これはいらぬ」と言われたものに学校誌とか結構重要な資料が入っていたり、あるいは明治初年に作られた小学校なんかはその頃の資料がちょっとあつたりするんですね。そういうことを考えると、今小林さんがおっしゃったように、実際調査先として特にいい機会があればちゃんとして行って調査できる仕組みをちゃんと作っていただくといいと思うし、そういう時に呼んでいただければ私も人足として参ります。そういう調査は大好きですので。

それから3点ほど。教員の演習というのはお考えになっておられないのかなと思って。学校の先生に博物館を知ってもらうのにはいい機会だと思って歴博にいる時に学校の先生を対象にした夏休みの講座をやったことがあるんですけど、なかなか遠くからは来れなかったりするんですが、八千代市の小中学校の先生に声をかけて校長先生と相談しながら、教員の研修みたいなものをここでやるということも計画されてもいいかなと。今学校に行ったら意外と知らないで転勤してくとおっしゃいましたけど、逆に言うところに行っても地域の歴史を子どもたちに自分もしゃべれるトレーニングがあってもいいかなという気がしました。

もう一つは、以前も申しましたが、市史資料編という非常に優れた資料を作っておられて、それは同好会の方が研究したりとか、市民の方たちがやっておられてかもしれませんが、やはり八千代市史というものをもういっぺんちゃんと使うとか八千代市史にあるものをデジタル化するとか、そういう作業をコツコツやっていくのも一つかなと思います。亡くなられた須田先生という国語の先生がいたんですけど、一生懸命集めていい市史を作っておられるし、いい資料編をつくっておられるので千葉県内でも非常にいい市史だと思っているので、その活用方法を少し考えてもいいのではないかと思います。そんなにお金もかけることではないですから。

それから3つ目は、古文書同好会と古文書講座の関係というのがなんとなくよく見えてなくて、せっかく古文書講座があって古文書同好会もこんなにやられているのに、そこで何か連携した作業ができないのかなとちょっと思いました。そのあたりもご検討いただければと思います。

○小林委員 土俵が違うことなのでここで聞いていいものかわからないんですが、日本語を母国語にしない方がこの博物館を訪れるということってどのくらいございませうでしょうか。

- 中村館長 実際の見学で母国語の違う方は日本語ができる方と一緒に来たりするので一人で来ているというケースはなかったんですけど、ただ5月の昔の遊び体験なんかはまったく英語しか喋れない人が来て実際に触って楽しめるので、楽しんでいたんですけど、全く日本語が母国語じゃない人の対応というのは、タイトルぐらいはつけたいなというような状況で。具体的にはアンケートの英語版も作ったりはしてるんですけど、そういうレベルというような状況ですね。
- 小林委員 すみません。ちょっと話題にすべきではなかったかもしれませんが、将来的にはみていかないと思います。
- 久留島委員長 それでは、3つの議題についてはご了承を頂いたものといたします。

視察

(1) 令和5年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～資料から知る阿蘇・米本地区～」

- 久留島委員長 それでは、本日は、令和5年度のくらしのうつりかわり展のご案内をお願いいたします。
- 小林副主幹 この後、私小林が企画展示室までご案内しまして、展示内容についてご説明いたします。なお視察終了後この学習室に戻りますので、お荷物はそのままお席に置いておいていただいて大丈夫です。ではご案内いたします。

(企画展を視察)

(視察終了後)

- 久留島委員長 基本的に議事の方は委員の皆様にご承諾いただいたので、委員の皆様にはご協力に感謝申し上げます。事務局の方もご準備が大変だったんじゃないかと思います。御礼申し上げたいと思います。最後に、事務局の方から連絡事項等はございますか。
- 中村館長 長い間ありがとうございました。事務局の方からは特になんですけど、今年の7月に委員の任期が終了となりますので、再任のお願いの連絡等をさせていただきたいと思いますので、その際にはよろしく願いいたします。それでは、私の方からは以上になります。
- 久留島委員長 それでは、本日の令和5年度第1回郷土博物館協議会を閉会といたします。ご協力ありがとうございました。
- 一同 ありがとうございました。